

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



公益財団法人 日本自転車競技連盟広報誌



www.jcf.or.jp

シクリスムエコー No.212

2015年4月・5月号

全日本選手権トラックレース、マディソン優勝の法政大 A チーム



全日本選手権自転車競技大会トラックレース	2
平成27年度事業計画	6
競技規則集2015年改訂事項一覧表 概要説明	9
日本新記録	18
今後の大会予定	18
連盟の動き	18
競技結果	18
派遣選手団	18
第40回チャレンジサイクルロードレース大会	19
日本代表選手団	21
平成26年度全国高等学校選抜自転車競技大会	22
チャレンジロード photo	24



KEIRIN



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。  競輪の補助事業

RINGRING!  
プロジェクト

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。

くわしくはウェブで  
RINGRING!  検索



# 全日本選手権 自転車競技大会 トラックレース

同時開催：  
日本パラサイクリング選手権  
トラック大会



男子ケイリン決勝

オリンピック前年の強化指定選手を選考する重要な大会となる全日本選手権トラックレースが、4月11日～12日の2日間にわたり伊豆ペロドロームで開催された。また昨年同様今大会も、日本パラサイクリング選手権・トラック大会が併催された。

## 女子パラサイクリング 500mTT

藤井美穂(JPCF)が自らの持つ日本記録を100分の2秒更新した。

自己記録を更新できましたがまだまだです。トラックのシーズンはこれで終わりなので、次は苦手なロードを好きになれるようトレーニングします。(藤井)



500mTTの藤井

## 男子パラサイクリング 1kmTT

C3クラスからC5クラスまで混走となり、係数タイムにより藤田正樹(チームチェプロ)が優勝。実走タイムでは石井雅史(イナーメ信濃山形)が1分9秒845の一番時計を記録した。

お互いに切磋琢磨して、リオ(五輪)の舞台に立てよう頑張りたい。(石井)

## パラ 3km 個人パーシュート

C2、C3クラスの混走となり、係数タイムにより藤田が優勝。ただし藤田のC3クラスは係数が1なので、実走

タイムそのものが係数タイムとなった。(トラック)シーズン最後の全日本で、内容のある走りができました。(藤田)



1kmTTの藤田

## パラ 4km 個人パーシュート

C4、C5クラスの混走となり、係数タイムにより石井雅史が優勝した。

## 女子エリート 500mTT

6名が出走し、梶田舞(JPCA)が36秒992で優勝した。

課題がいろいろ見つかったので、まだ伸びる可能性があることがわかりました。(梶田)



500mTTの梶田

## 男子エリート 1kmTT

大学生の野上竜太(鹿屋体育大学)が大会新記録で優勝し、JPCA所属

選手によるこの大会の連勝記録を12でストップした。

大きな舞台で自己ベストが出せたことは嬉しいですが、(狙っていた)2秒台を出せなかったことは悔いが残ります。(野上)



1kmTTの野上

## 男子エリートチームスプリント

予選1位の鹿屋体育大学が、予選2位の朝日大学を0.193秒の僅差で下し優勝した。

1年間このチャンピオンジャージを着用できることは嬉しい。インカレ総合3連覇に向けて、これからも強化していきます。(鹿屋体大)



チームスプリントの鹿屋体育大学

**女子エリートチームスプリント**

2チームの出走で、JPCAチームが岩井商会レーシングチームを下して優勝した。

石井さんのスピードに乗っていただけでした。(小林)  
小林さんに助けられました。(石井)

**女子エリート3km個人パーシュート**

予選1位は唯一44秒台を出したアジア選手権ジュニア5冠の梶原悠美(筑波大坂戸高)であったが、決勝では上野みなみ(鹿屋体大)が4秒強の差をつけて優勝した。

(梶原の予選タイムには)びっくりしましたが、焦りはありませんでした。思った以上に体が動きました。(上野)

**男子エリート4km個人パーシュート**

窪木一茂(和歌山県教育庁)が大会4連覇の橋本英也(鹿屋体大)を下し、5年振りにタイトルを奪還した。

久しぶりのタイトルは嬉しいですが、できれば記録を狙いたかったです。(窪木)



4kmIPの窪木

**女子エリートケイリン**

最初のスタートで前田佳代乃(京都車連)が追走義務違反を取られ失格。再スタート後のレースは石井貴子(JPCU千葉)が、先行する中川涼子(JPCU新潟)を最終周回にかわして優勝。

オリンピックに出場するために、絶対に優勝しようと思っていました。(石井)



女子ケイリン決勝

**男子エリートケイリン**

JPCA所属6選手による決勝は、渡邊一成(JPCU福島)が激戦を制して大会3連覇。9位までをJPCA所属の選手が占めた。

3連覇を目標にしていた、それを達成することができてホッとしました。練習の成果を結果として出せたということです。(渡邊)

**男子エリートマディソン**

新村穰、寺崎浩平の法政大学Aチームが、5回全てのポイント周回でポイントを獲得し、うち4回がトップ通過とほぼ完勝であった。

去年は1点差の2位で悔しい思いをしましたが、今年は優勝できて本当にうれしいです。(法政大A)

**女子エリートポイントレース**

上野と梶原の2名が周回ポイントを獲得。冷静なレース運びで梶原に4点差をつけて、上野が優勝した。

(世界選手権)銀メダルの期待は感じていたので、小さい走りはできないと思って走りました。(上野)  
憧れの選手と走れたのはいい経験でした。課題が見つかった大会になりました。(出場二種目で2位の梶原)

女子ポイントの上野



**男子エリートポイントレース**

レース全般にわたってポイントを獲得した窪木が、2位に13ポイントの差をつけてこの種目3年振り3回目の優勝を飾った。

勝つことは本当に難しい。久しぶりに優勝できて良かったです。(窪木)



男子ポイントの窪木(先頭)

**男子エリートスクラッチ**

同日午前の4kmTPの予選にも出走した原井博斗(中央大)が、その影響を感じさせることなく優勝した。

4km予選を走った不安もありましたが優勝できました。走りはまだ完成ではありませんが、とても嬉しいです。(原井)



男子スクラッチの原井(左)

**女子エリートチームパーシュート**

強化チームのみのエントリーで、記録を狙っての出走。大会新記録を出したが日本記録には及ばなかった。

最初の入りは良かったのですが、それを維持していくのが今後の課題です。(強化)



女子TP強化チーム

**男子エリートチームパーシュート**

予選1位は大会新記録を出した岐阜県チームであったが、決勝は和歌山県チームが岐阜に一度もリードを許さず優勝し、今秋の国体開催を控え、強化が順調に進んでいることがわかった。

この調子を崩さず、和歌山国体まで結果を出していきたいです。(和歌山)  
3冠の実感は特にはないです。(今大会3冠の和歌山・窪木)



男子TPの和歌山

**女子エリートスプリント**

前田が2本を先着し、この種目で大会7連覇を達成した。特に1本目

は対戦相手の石井貴が、早々にあきらめるほどの鋭いダッシュを見せた。

昨シーズンから苦しいことばかりで精神面でも辛かったのですが、これを成長に繋げていきたいと思います。(前田)



女子スプリントの前田(左)

**男子エリートスプリント**

決勝に進出したのは、今大会ケイリン王者でこの種目2連覇を狙う渡邊と、その渡邊に予選で0.022秒差の僅差で続いた中川誠一郎(JPCU熊本)。双方1本同士で迎えた3本目は、先行する渡邊をゴール前に差した中川が先着して優勝した。

2本目のケイリン王者の走りを見て、心が折れそうになりました。お互い気持ちの合った良いレースができたと思います。(中川)



男子スプリントの中川(左)

アジア選手権、世界選手権と大きな大会が続いたこともあり、いくつかの大会新記録は出たものの、記録的にはやや低調な大会となったが、新たな強化チームが編成されて来年のリオ五輪、そして5年後の東京五輪に向けて順調な強化を期待したい。パラサイクリングが開催された11日には、昨今注目を集めている障がい者スポーツということもあり、多くの報道陣が会場を取材に訪れた。今年は11月に同地で「ジャパン・パラサイクリングカップ2015」が予定されており、パラリンピックに向けてパラサイクリングも今後の発展を大いに期待したい。

(村田 隆宣)

**【競技結果】**

全日本選手権自転車競技大会トラック  
(2015/4/11-12 静岡・伊豆パドローム)

**男子1kmタイムトライアル**

- 1 野上 竜太 岡山 鹿屋体育大 1:03.736
- 2 早坂 秀悟 JPCA JPCU 宮城 1:03.911
- 3 堀 航輝 香川 鹿屋体育大 1:04.299



**男子スプリント**

- 1 中川誠一郎 JPCA JPCU 熊本
- 2 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 3 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山



**男子個人パシュート**

- 1 窪木 一茂 和歌山 県教育庁 4:33.515
- 2 橋本 英也 岐阜 鹿屋体育大 4:36.787
- 3 一丸 尚伍 大分 アンカー/太陽の家 4:34.833



**男子ポイントレース**

- 1 窪木 一茂 和歌山 和歌山県教育庁 39p
- 2 原田 裕成 岡山 鹿屋体育大 26p
- 3 小林 泰正 群馬 日本体育大 25p



**男子スクラッチ**

- 1 原井 博斗 福岡 中央大
- 2 浦田 真成 岐阜 朝日大
- 3 松本 憲斗 熊本 鹿屋体育大



**男子ケイリン**

- 1 渡邊 一成 JPCA JPCU 福島
- 2 和田真久留 JPCA JPCU 神奈川
- 3 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山



**男子マディソン**

- 1 法政大 A 新村・寺崎 22p
- 2 岡 山 原田・渡部 14p
- 3 鹿屋体育大 阿部・橋本 8p



**男子チームパシュート**

- 1 和歌山 窪木・岡本・森口・永橋 4:14.743
- 2 岐 阜 橋本・渡邊朝・相馬・浦田 4:15.330
- 3 学 連 眞砂・吉川・荒井・小林 追抜勝



**男子チームスプリント**

- 1 鹿体大 野上・堀・山口 47.270
- 2 朝日大 小原・上遠野・松本 47.463
- 3 中央大 佐伯・宮本・橋本 48.461



**女子500mタイムトライアル**

- 1 梶田 舞 JPCA JPCA 36.992
- 2 小林 優香 JPCA JPCU 福岡 37.039
- 3 小坂 知子 JPCA 岩井商会 R. 37.704



女子スプリント

- 1 前田佳代乃 京都 京都車連
- 2 石井 貴子 JPCA JPCA 千葉
- 3 石井 寛子 JPCA JPCA 東京



女子チームスプリント

- 1 強化 加瀬・上野・小島・鈴木 4:44.732



女子チームスプリント

- 1 JPCA 石井寛・小林優 35.906
- 2 岩井商会 小坂・小林莉 37.478



パラサイクリング 500m タイムトライアル

- 1 藤井 美穂 C2 東京 54.702



パラサイクリング 1km タイムトライアル

- 1 藤田 征樹 C3 茨城 1:07.906
- 2 石井 雅史 C4 東京 1:08.846
- 3 阿部 学宏 C5 静岡 1:16.418



パラサイクリング 3km 個人パシント

- 1 藤田 征樹 C3 茨城 3:41.565
- 2 相園健太郎 C3 福岡 4:25.413
- 3 藤井 美穂 C2 東京 4:30.591



パラサイクリング 4km 個人パシント

- 1 石井 雅史 C4 東京 4:57.816
- 2 阿部 学宏 C5 静岡 5:27.198
- 3 小池 岳太 C5 東京 6:05.830



女子個人パシント

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 3:45.060
- 2 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸 3:49.317
- 3 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟 3:49.190



女子ポイントレース

- 1 上野みなみ 青森 鹿屋体育大 39p
- 2 梶原 悠未 埼玉 筑波大坂戸高 35p
- 3 塚越さくら 鹿児島 鹿屋体育大 19p



女子ケリソ

- 1 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉
- 2 加瀬加奈子 JPCA JPCU 新潟
- 3 小林 優香 JPCA JPCU 福岡



新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworld



JAPAN AIRLINES

# 平成27年度 事業計画

公益財団法人 日本自転車競技連盟

本連盟は、我が国における自転車競技界を統轄し、代表する団体として自転車競技の普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的に各種事業を実施してきており、本連盟がその目的を達成するために、本連盟加盟団体をはじめとした関係機関・団体とのより一層の連携強化を図り、自転車競技を通じた社会貢献への実現に努力する。

また、競技力の向上並びに自転車競技の普及振興を図るとともに、2016年リオデジャネイロ及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、競技者層の拡充、特に女子競技者層並びにジュニア競技者層の拡充に努める。

## I 事業計画概要

### [総務委員会]

公益財団法人として、公益認定法において公益目的事業として掲げられている「スポーツを通じて国民の心身の健全な発達に寄与し、又は豊かな人間性を涵養する」ことを踏まえ、引き続き、より一層の透明性の高い業務運営を行っていくこととする。併せて、本連盟における社会的存在の責務を自覚し、競技大会を通じて自転車の安全マナーの啓発活動の実施や、アンチ・ドーピング委員会と連携し、アンチ・ドーピング活動の啓発にも積極的に協力していくこととし、指導現場における暴力行為やハラスメントについては自らを厳しく律していく努力を続けていくこととする。

本連盟の財政状況については、諸経費の支出について引き続き緊縮を図り、他方、広く活動資金の援助を求めるため、より一層の賛助金、寄附金を得ることについて努力するとともに、競技主管等の位置付けを明確にする等、収支の均衡を保つことを目指し自主財源の増額についてその方策を企図していく。

さらに、国際大会においてメダルを獲得しうる選手の育成を図るとともに、指導者・コミッセルを育成することにより国内大会のレベルアップを図り、もって自転車競技の普及振興を推進する。

### [広報委員会]

本年度は、自転車競技の魅力を一般に広く周知するため、また登録人口の拡大を図るためにも各加盟団体および各専門委員会との連携のもと以下の諸事業を実施する。

#### 1. ホームページでの情報発信

大会結果速報等のタイムリーな情報発信に努めると共に、全日本の大会開催要項、競技結果、日本代表選手の活躍など広く情報発信に努めるものとする。

更に、JCFが統轄する8種目については、全日本選手権を中心に内容を充実させるとともに、各団体の活動状況の記事を募集し地域の自転車競技の情報を発信する。併せて、国際大会の成績や日本記録のページを充実させる。

また、競輪補助事業としての効果を発信

することが求められていることから、各大会の様子を掲載する。

#### 2. 広報誌「シクリスムエコー」の発行

自転車競技の魅力を一般の方にアピールできるように、競技をわかり易く解説できる誌面の充実を図る。また、イベント会場での配布、諸団体への配布を通じて広く自転車競技の啓発普及につなげる。

#### 3. 自転車競技の広報・報道対応

全日本選手権大会における観客動員を意識したPRをロード、トラックを中心に実行委員会等と協力して実施する。

また、来場する報道機関に対しても、種目別の委員会および部会ならびに種目別団体とも連携し情報を共有し積極的な情報提供を行いメディア露出機会の増大に努める。

### [競技運営委員会]

#### 1. 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機とした、競技環境整備への取り組み

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における自転車競技においては、本格的ロードレース・トラックレース・マウンテンバイク・BMXが行われ、東京・日本におけるサイクル・スポーツの日常化・普及振興への寄与が期待される大きなチャンスである。しかしながら2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会立候補ファイルにおいては、いずれの施設も仮設競技場として建設され、大会後には解体される計画とされている。

一方、2014年12月にIOCより発表された「アジェンダ2020」では既存施設の活用が盛り込まれている。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のために建設される競技場がサイクルスポーツ振興の拠点として有効に活用されるならば、スポーツ基本法にも謳われているように今や「国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠のものとなっている」スポーツの振興に寄与できることは間違いがない。特にサイクルスポーツはその入門のしやすさと、移動手段を兼ね備えていて日常化が容易であるという側面があり、アウトドアスポーツをルーツとしながらも都市型スポーツの要素を兼ね備えている。

こうした魅力をより多くの人々に伝えて支持をうけ、大会後を見据えた競技場とすることへの取り組みを続けていく。各種目の競技会場設置方法が仮設・既存活用いずれの手法になろうとも、大会終了後にも継続的にサイクルスポーツの振興に寄与するインパクトとなるよう、引き続き注力していく。

#### 2. 日本国内における国際大会の開催

日本国内における国際大会の開催は、大会結果に与えられるランキングポイントを通じたオリンピック・パラリンピック競技大会や世界選手権・ワールドカップ等のより上位の国際大会への参加資格獲得機会として重要であるだけでなく、近隣諸国への大会参加機会提供という日本のアジアにおける貢

献、という意味でも重要である。

2015年度は、2016年1月に8年ぶりの日本開催となるロード&トラック・アジア自転車競技選手権大会を開催する。ロードレースは東京都大島町、トラック・レースは静岡県伊豆市・伊豆ベロドロームで開催予定である。トラック・レースについては、アジア諸国が年間数次にわたる国際大会を実施する機運にあることに対応し、さらなる国際カレンダー登録大会の実施・公認を積極的に推進する。

ロードレースについては、引き続きUCIカレンダー登録大会を日本国内で積極的に開催し、サイクルスポーツの日本における活性化を図るとともに、日本人選手の国際的な活躍の基礎を確保することにつとめる。

パラサイクリングについては、日本で初めての国際カレンダー登録レース(UCIクラス2)として「寛仁親王記念ワールドグランプリ」が2014年7月に伊豆ベロドロームでおこなわれたところであるが、2015年度は日本で初めてのUCIポイント対象大会(UCIクラス1)となる「ジャパン・パラサイクリングカップ2015」を11月に伊豆市で開催予定である。

マウンテンバイクについては、日本国内で獲得可能なUCIポイントの拡大に向けて、UCI登録レース数の拡充を図る。

シクロクロス、BMX、インドア、トライアルについては、UCIカレンダー登録レースの開催を引き続き積極的に推進する。

#### 3. 全日本選手権大会の開催

##### 3-1 オリンピック・パラリンピック競技大会実施5種目を含む、UCI管轄8部門での全日本選手権大会開催

国際自転車競技連合(UCI)の管轄する自転車競技8種目(ロード、トラック、シクロクロス、マウンテンバイク、BMX、インドア、トライアル、パラサイクリング)の全種目において全日本選手権大会を開催し、我が国における自転車競技の普及・振興を図る。これら全日本選手権大会は日本国内における最高位の大会として相応しい、国際規則に準拠した高度で円滑な大会運営と、高いコストパフォーマンスのバランスを追求しつつ、原則として国際大会への派遣代表選手選考の機会としての設定し、参加者のモチベーションを高く保つこととする。

オリンピック・パラリンピックの開催種目であるロード、トラック、マウンテンバイク、BMX、パラサイクリングについては、2020年の大会開催へ向けた準備を意識しつつ取り組んで行く。

##### 3-2 参加申込み資格の明確化と多様化

全日本選手権大会への参加申込み資格としては、すでに国際的に活躍してUCIランキングポイントを保持している者や前年度全日本選手権大会で一定の成績を収めている経験豊富な競技者を含めることと併せて、日本国内各地で行われる本連盟・加盟団体主催事業大会、ならびに他の主催者が主催者

となり本連盟が主管もしくは公認する大会から広く上位者を選定する。これにより、地域的・階層的に幅広く門戸が開かれたハイレベルな選手層の参加に配慮するとともに、地域における大会開催意欲の喚起を図るものとする。

### 3-3 開催地公募制度の活用

大会の開催にあたっては開催地の協力が不可欠なことから、開催地公募制度を種目毎の特性に応じて活用し、人的・施設の・資金的側面等において手厚い協力が得られる地方との連携を図りつつ、活力ある大会運営を図る。また、各地方における大規模大会の実施が、当該地域における継続的な大会開催のきっかけとなるよう、大会運営ノウハウの蓄積と伝授に留意する。

### 3-4 大会開催資金の獲得

大会開催資金の獲得にむけて、協賛企業の募集・マスメディアに対する働きかけ、開催地行政との調整、運営コストの見直しを多角的に進めることとする。

### 3-5 アンチ・ドーピング活動の徹底

アンチ・ドーピング委員会と連携し、「大会検査」、「アンチ・ドーピング講習会、アウトリーチプログラム実施、啓発活動においてアンチ・ドーピング活動を行う。

### 4. 国民体育大会の女子種目導入への取り組み

男女種目・参加者数の同数化が図られてきている世界的な情勢に対応すべく、国体における女子種目導入に向けて積極的に検討を進めてきているところであり、すでに2016年の岩手国体からトラック女子種目(チームスプリント、ケイリン、スクラッチ、参加数各都道府県2名)の実施が決定している。併せて、大会全体の簡素化・時程短縮を図るなど、簡素かつハイレベルな大会への進展を進める。今後は、より一層の女子登録競技者数の増大をはかりつつ、ロードレースなど女子種目の拡大を日本体育協会や開催地行政等、関係諸機関と連携を深めつつ進めていく。

### 5. 日本国内における国内カレンダー大会の開催・登録

自転車競技の普及・発展には登録者数の増大が必須であり、登録者数の増大には、登録者が参加可能な大会数の増大が必須である。本連盟の主催大会実施数にはおのずと限界があり、本連盟登録者を対象とした大会数の大幅な増大には、各地域における主催者との連携し、本連盟が競技面に適切に関与し、状況に応じて大会の主管・後援等を行うことによって多数の大会を実現していく必要がある。後援等に関する基準を再整備するとともに、積極的に運用していくこととする。

### 6. 審判・スタッフ等の研修・資格制度の充実

自転車競技の普及発展には、安全で円滑に運営される大会数の充実に必要であり、それを担う高度な技量と経験を有する審判の育成が必須であり、引き続き公認審判員の育成に力を注ぐ。公認審判員は、大会運営の質の確保にあたり必須の資源であり、本連盟の事業的発展には公認審判員の人的資源の発展が必須であって、公認3級審判員、2級審判員講習会の実施主体たる加盟団体の継続的協力を引き続き強く要請する。

また、将来的に国際コミッセルとして執務可能な人材の育成にも長期的視点で取り組み、1級審判員講習会の講義内容・試験の質的向上を図る。とりわけ2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時に、開催国が選出・提供すべきナショナル・コミッセルの数と質を確保するため、本年度は対象5種目の2級審判員数の増大に努力する。また、国際コミッセル候補者の育成に向けた、エリートナショナルコミッセルコース開催に向けた準備を行う。

講習会カリキュラムについては、平成24年度にそのガイドラインを定めたところであるが、講習会用ツールの開発・改善を進めて、講習会の質的向上をはかりつつ、開催時の負担軽減によって講習機会の増大も図る。

### 7. コーチ・スタッフ等の研修・資格制度の充実

大会運営のレベル向上には選手・審判のみならず参加するチーム・スタッフの基礎的知識・技能の向上も必須である。

東京開催の国民体育大会(2013)から、都道府県チームの監督は日本体育協会のコーチ、上級コーチ、もしくは指導員の有資格者であることが義務づけられたところであるが、引き続き日本体育協会コーチ資格講習会を本連盟主催により積極的に実施していく。指導員資格講習会についても、各都道府県連盟においてを実施いただいたところである。また、受講済みの人材が講師として活躍できる場の確保にも留意する。

大会に参加するものは遍くライセンス保持者であることが求められるものの、コーチ・監督以外のチームスタッフ向けライセンスは発給されてこなかったが、チーム・サポート・スタッフとして求められる最低限の競技規則に関する知識と、スタッフとしての心構えを備えた「チーム・アテンダント」ライセンス制度がすでに始まっている。諸外国においても、たとえばロードレースにおける車両運転者のライセンス保持確認の徹底など、選手以外のライセンス保持に関する規程と運用は厳格化の方向にあり、当連盟としてもコーチライセンス、チームアテンダントライセンス保持者の増大に向けて、講習会の活性化を図る。将来的には大会参加に際して、メカニック等のスタッフを含めてすべてのチーム関係者は、いずれかのライセンス保持を必須とする方針であり、各加盟団体に周知徹底を図っていく。また、長期にわたって実施されていない日本体育協会上級コーチ資格講習会を、本年度は実施予定である。

### 8. 競技者ライセンス制度の充実

我国における自転車競技の普及発展に必要な登録競技者数の増大と、登録者向け大会数の増大に向けて、すでに制度化されているビギナー向け大会における臨時登録制度の活用とともに、ビギナー・若年層が登録しやすい仕組みの拡充を図る。

2013年度から実施された通年登録者(プロフェッショナル競技者を除く)に対する賠償責任保険の自動付帯は、概ね肯定的な評価を受け、登録料の値上げを伴ったものの、微増ながら登録競技者の増加に寄与した。万が一の事故時対策が強化されたこと

周知徹底をはかり、登録競技者数の増大に寄与することが期待される。もちろん、大会中・練習中を含めて事前の事故防止対策が重要である。今後引き続き、傷害保険のオプション付与やツアー関連のメリット付与等、ライセンス保持者へのサービスレベル向上の検討を進める。平成28年度ライセンスからの傷害保険オプション制度のスタートを目標として、インターネットから申込み者が直接入力可能な登録システムの準備を行う。

### 9. ランキング制度の運用

運用を休止していたロードレース・ランキングについて、2014年度後半より対象大会の見直しを行った上で再開したところである。引き続きUCIランキングとの整合性が高く、日本各地での大会開催機運の醸成に寄与し、選手選考等の有効なツールとして位置づけていく。

### 10. チーム登録制度の運用

現在運用を休止しているチーム登録制度について、すでに実態として運用されている全国団体を中心として運用を開始する。

### 11. 審判器材

競技運営に用いる審判器材について、記録の信頼性を確保するため、一定の基準を設けることを検討する。

### 12. パブリシティへの対応

競技大会運営にあたっては、安全・公平・公正なる運営を旨としつつも参加者・観客視点を尊重し、より多くの人々から共感を得て我国における自転車競技の普及発展に寄与することを目指すとともに、新たな競技者の登録へのきっかけづくり、メディアへの露出度向上を通じた各方面からの支援・協賛の増大に配慮する。

とりわけ、本連盟が主催する全日本選手権大会については、動画を含めた映像の配信とアーカイブとしての記録の拡充を図る。また、日本国内で行われる国際大会についても、メディア露出機会増大に努める。

### 13. 東日本震災復興支援への取り組み

本連盟として復興支援に寄与可能なことは何があるか、という問いは永遠に続くが、被災地・周辺における大会の開催は、比較的容易な回答のひとつである。大会開催は、場合によっては開催地に負担をかける危惧もあるが、参加者・大会運営関係者・観客・メディア関係者など多くの人々が訪問することは、震災に対する認識を新たにす機会を提供になると思われる。

平成27年度は、全国都道府県対抗自転車競技大会が、岩手県紫波町で実施される。

### 14. 小委員会、部会制度の活性化

種目別小委員会活動の活性化を図り、UCI管轄8部門すべてに亘る自転車競技の振興を推し進める。コミッセル部会活動の活性化により、大会競技運営の質的向上と、コミッセルの将来的な人材育成を図る。必要に応じて、小委員会構成の再構成を行う。

### 【選手強化委員会】

オリンピック・パラリンピック競技大会をはじめとする国際大会におけるトップアスリートの活躍は、国民に夢や感動を与え、明るく活力ある社会の形成に寄与することか

ら、本年度においては世界で通用する競技者を計画的に育成・強化し、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック競技大会、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け継続的なメダル獲得を目的として事業を実施する。

特に、本年度は以下の項目を重点施策として実施する。

- (1) 世界強豪選手と対等に戦えるパワー強化。
- (2) ジュニア世代からの一貫した強化プログラム作成及び指導者養成。
- (3) 競技力向上に関わる医科学的サポートの充実。
- (4) 将来的にメダル候補が期待できる女子選手の強化。
- (5) 才能を発掘するための発掘事業の実施。

トラック競技においては、優秀な選手を育成・強化することを目的として、2015年全日本トラック選手権終了後強化指定選手の再編成を行い、選手強化に努める。

また、強化指定選手の再編成以降はJCF加盟団体（都道府県車連・高体連・学連・実車連・プロ協会等）から推薦された者をトレーニングキャンプにテスト生として受け入れ、選手発掘に努める。

UCI公認国際大会へ積極的に日本代表選手団を派遣し、ワールドカップ、世界選手権大会等全種目での参加枠獲得に努め、さらに2016年リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピック競技大会出場枠獲得に努める。

ロード競技については、ヨーロッパに活動拠点を構築し、より多くのレース経験を重ねることにより、国際競技力の向上を図る。

また、海外チーム所属強化指定選手並びに国内強化指定選手との連絡を密にして体調把握し、世界選手権大会でのメダル獲得に努め、さらに2016年リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピック競技大会出場枠獲得に努める。

その他国際大会においては、U23の選手を中心としてナショナルチームを編成し、国際大会へ積極的に派遣し選手強化・育成に努める。

MTBについては、海外チーム所属強化指定選手によるUCI公認国際大会での国際ポイント獲得および支援に努め、さらに2016年リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピック競技大会出場枠獲得に努める。

国内強化指定選手における（ユース、ジュニア、U23）若年層からの強化・育成に努める。

BMXについては、UCI公認国際大会派遣により世界選手権の参加枠獲得に努め、さらに2016年リオデジャネイロ・オリンピック・パラリンピック競技大会出場枠獲得に努める。

また、ユース層の強化育成選手を中心に、日本サイクルスポーツセンターを合宿拠点として活用し、世界選手権大会等での上位入賞に努める。

ジュニア競技者の強化については、国際大会への選手派遣並びに強化合宿を積極的に行い、強化・育成に努める。また、各種目ヘッドコーチをジュニア競技者強化合宿へ積極的に派遣し、一貫した選手の強化・育

成に努める。

女子競技者の強化については、本年度も国際大会への選手派遣並びに強化合宿を積極的に行い、強化・育成に努める。また、女子競技者においては他種競技団体との連携を密にし、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた選手の発掘に努める。

選手発掘事業については、日本スポーツ振興センター主催のタレント発掘・育成（NTID）合同トライアル、並びにガールズサマーキャンプを通じて選手発掘に努める。

### 3. 国際競技大会関係主要事業

- ① 世界選手権自転車競技大会選手派遣（トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX、室内自転車競技、シクロクロス、トライアル、Jrトラック、）
- ② ワールドカップ大会選手派遣
- ③ アジア自転車競技選手権大会選手派遣（トラック、ロード、マウンテンバイク）
- ④ UCIトラックカレンダーレースへの派遣
- ⑤ 国際会議への派遣

#### [アンチ・ドーピング委員会]

昨今の海外におけるドーピング違反報道は、まるで自転車競技といえばドーピングというイメージを持つくらいスポーツ界のみならず、一般社会全体にマイナスイメージを与える影響が大きいと思われる。このことは本連盟にとっても非常に重要な意味を持つものであり、真摯に受け止めドーピング防止策を速やかに進めていかなければならない。具体的には、ドーピング防止、抑止力の核をなす二本の柱、「大会検査」、「アンチ・ドーピング講習会、アウトリーチプログラム実施、啓発活動」を活動の軸にすえて事業の実施を行う。

#### 1. 検査の実施と検査体制の充実

##### (1) 検査実施予定対象大会

全日本大会、国際大会の検査対象大会において実施予定。

##### (2) JADA派遣DCOとの協同作業

国内で開催される全日本選手権（ロード、トラック、シクロクロス、MTB、BMX、インドア、トライアル、パラサイクリング）大会において検査を実施する。

検査の実施に当たっては、検査の国内統括機関であるJADA（日本アンチ・ドーピング機構）の協力の下、JADA派遣DCO（ドーピング・コントロール・オフィサー）と本連盟アンチ・ドーピング委員会推薦のDCOで検査を担当する。JADA派遣DCOと協力し、協同作業することにより、検査の公平性、客観性を保つことに努める。

##### (3) シャペロンの増員、継続性

WADA規定、UCI規定両面からも大会検査におけるシャペロンの役割が重要になってきている。具体的には、対象選手をよりきめ細かく監視するためには人数の増員が不可欠であり、それらを実践させる為にも現在のシャペロン人数増員の必要性について、各大会主催者側へ協力を依頼する。さらにはそれらのシャペロンに多くの試合を経験させ、養成していくことも重要である。

#### 2. 啓発活動の充実

啓発活動の充実を図るには、講習会の開催が必要であるがアンチ・ドーピング委員会単独で開催することは受講者数の確保が現実的には難しく審判講習会、他各加盟団体事業と広く協力し、同会場、同日程で開催するなどの工夫が必要である。また、開催される講習会へは積極的に講師の派遣を計りたい。現在すでにJCFホームページによるUCI規則の改訂、禁止薬物、スポーツファーマシスト検索、TUE申請等に関する問い合わせ、広報を行っているが、これをさらに充実させ選手・監督からの要請に応えたい。具体的にはWADA、UCIの競技規則改定があった際、選手・監督がより理解しやすいように改正点を抽出するなどして掲載する。将来的には、大会参加者に対して、ホームページに掲載してある重要事項、エラーニングプログラム学習修了証をプリントアウトさせて受付を行う方法も有効と考えられ、実現化に向けたホームページの課題の整備、改善を図る。

次に、本連盟所属のRTPA<sup>\*</sup>選手は現在約10名が登録されている。居場所情報登録提出、問い合わせがあれば質問に応え、本連盟アンチ・ドーピング委員会の責任として事務局を通して行う。

最後に、昨年度も北海道大学薬学部を通して分析を行っている使用薬物リストの分析を本年も引き続き行い、分析結果をアンチ・ドーピング啓発活動に供したい。

※RTPAとは、JADAまたは国際競技団体(IF)の検査対象者登録リストへ登録されたトップクラスのアスリートのこと。

RTPAになると、事前通告なしの競技会外検査をより効果的に受け自らがクリーンであることを証明するために、インターネット上のドーピング防止管理運営システム(ADAMS)を通じて四半期ごとに3ヵ月分の居場所情報を提出する必要がある。

居場所情報は、居住地・宿泊地・トレーニング場所や競技会などの情報を、例えば部屋番号まで詳細に提出しなければならず、さらに、必ず検査に対応できる時間と場所を指定する「60分の時間枠」を指定することも義務付けられている。60分枠で指定した時間と場所にいなかった場合（検査未了）、または居場所情報が期限までに提出されなかったり、アップデートされてない（居場所情報未提出）ことが12ヶ月間で合計3回になると、「ドーピング防止規則違反」となり、4年間の資格停止になる可能性がある。

#### [国際推進部会]

本連盟によるチーム派遣のみならず個々のチーム、競技者、審判員らによる多様な国外競技活動や、国内での国際大会開催、国際化を視野に入れたチーム等の体制の整備など、多年に亘り国際的活動は増加し続けている。

この状況下、わが国と世界、特にアジア圏の自転車競技の健全な継続的発展に資するために、国内、国外から評価される高いブランド力が求められる。

そのために国際的競技大会の質を高め、さらに国内大会に反映させるためにも、国際

【別表5】

2014 マウンテンバイク・ポイント・ランキング・テーブル										2014 マウンテンバイク・ポイント・ランキング・テーブル										
順位	エリート	U23	ジュニア	マスター	順位	エリート	U23	ジュニア	マスター	順位	エリート	CJ-1	CJ-2	DH クオリファイ (予選), XCT 等	順位	エリート	CJ-1	CJ-2	DH クオリファイ (予選), XCT 等	
1	200	150	90	90	41	37	300	250	75	20	1	300	250	75	20	1	300	250	75	20
2	170	120	60	60	42	36	240	200	60	17	2	240	200	60	17	2	240	200	60	17
3	140	90	30	30	43	35	210	175	53	15	3	210	175	53	15	3	210	175	53	15
4	130	80	54	54	44	34	180	150	45	13	4	180	150	45	13	4	180	150	45	13
5	125	50	46	46	45	33	160	130	36	10	5	160	130	36	10	5	160	130	36	10
6	120	45	44	44	46	32	150	120	30	9	6	150	120	30	9	6	150	120	30	9
7	115	40	40	40	47	31	144	120	30	9	7	144	120	30	9	7	144	120	30	9
8	110	35	32	32	48	30	144	120	30	9	8	144	120	30	9	8	144	120	30	9
9	105	30	30	30	49	29	144	120	30	9	9	144	120	30	9	9	144	120	30	9
10	101	30	30	30	50	28	144	120	30	9	10	144	120	30	9	10	144	120	30	9
11	97	28	26	26	51	25	144	120	30	9	11	144	120	30	9	11	144	120	30	9
12	92	26	26	26	52	24	144	120	30	9	12	144	120	30	9	12	144	120	30	9
13	89	24	24	24	53	23	144	120	30	9	13	144	120	30	9	13	144	120	30	9
14	86	24	24	24	54	22	144	120	30	9	14	144	120	30	9	14	144	120	30	9
15	83	20	20	20	55	21	144	120	30	9	15	144	120	30	9	15	144	120	30	9
16	83	20	20	20	56	20	144	120	30	9	16	144	120	30	9	16	144	120	30	9
17	80	18	18	18	57	19	144	120	30	9	17	144	120	30	9	17	144	120	30	9
18	77	16	16	16	58	18	144	120	30	9	18	144	120	30	9	18	144	120	30	9
19	74	14	14	14	59	17	144	120	30	9	19	144	120	30	9	19	144	120	30	9
20	74	14	14	14	60	16	144	120	30	9	20	144	120	30	9	20	144	120	30	9
21	71	12	12	12	61	15	144	120	30	9	21	144	120	30	9	21	144	120	30	9
22	68	10	10	10	62	14	144	120	30	9	22	144	120	30	9	22	144	120	30	9
23	61	8	8	8	63	13	144	120	30	9	23	144	120	30	9	23	144	120	30	9
24	59	7	7	7	64	12	144	120	30	9	24	144	120	30	9	24	144	120	30	9
25	57	6	6	6	65	11	144	120	30	9	25	144	120	30	9	25	144	120	30	9
26	54	4	4	4	66	10	144	120	30	9	26	144	120	30	9	26	144	120	30	9
27	54	4	4	4	67	9	144	120	30	9	27	144	120	30	9	27	144	120	30	9
28	53	3	3	3	68	8	144	120	30	9	28	144	120	30	9	28	144	120	30	9
29	52	2	2	2	69	7	144	120	30	9	29	144	120	30	9	29	144	120	30	9
30	51	1	1	1	70	6	144	120	30	9	30	144	120	30	9	30	144	120	30	9
31	50	1	1	1	71	5	144	120	30	9	31	144	120	30	9	31	144	120	30	9
32	49	1	1	1	72	4	144	120	30	9	32	144	120	30	9	32	144	120	30	9
33	48	1	1	1	73	3	144	120	30	9	33	144	120	30	9	33	144	120	30	9
34	47	1	1	1	74	2	144	120	30	9	34	144	120	30	9	34	144	120	30	9
35	46	1	1	1	75	1	144	120	30	9	35	144	120	30	9	35	144	120	30	9
36	45	1	1	1	76	1	144	120	30	9	36	144	120	30	9	36	144	120	30	9
37	44	1	1	1	77	1	144	120	30	9	37	144	120	30	9	37	144	120	30	9
38	44	1	1	1	78	1	144	120	30	9	38	144	120	30	9	38	144	120	30	9
39	44	1	1	1	79	1	144	120	30	9	39	144	120	30	9	39	144	120	30	9
40	39	1	1	1	80	1	144	120	30	9	40	144	120	30	9	40	144	120	30	9
41	39	1	1	1	81	1	144	120	30	9	41	144	120	30	9	41	144	120	30	9
42	39	1	1	1	82	1	144	120	30	9	42	144	120	30	9	42	144	120	30	9
43	39	1	1	1	83	1	144	120	30	9	43	144	120	30	9	43	144	120	30	9
44	39	1	1	1	84	1	144	120	30	9	44	144	120	30	9	44	144	120	30	9
45	39	1	1	1	85	1	144	120	30	9	45	144	120	30	9	45	144	120	30	9
46	39	1	1	1	86	1	144	120	30	9	46	144	120	30	9	46	144	120	30	9
47	39	1	1	1	87	1	144	120	30	9	47	144	120	30	9	47	144	120	30	9
48	39	1	1	1	88	1	144	120	30	9	48	144	120	30	9	48	144	120	30	9
49	39	1	1	1	89	1	144	120	30	9	49	144	120	30	9	49	144	120	30	9
50	39	1	1	1	90	1	144	120	30	9	50	144	120	30	9	50	144	120	30	9
51	39	1	1	1	91	1	144	120	30	9	51	144	120	30	9	51	144	120	30	9
52	39	1	1	1	92	1	144	120	30	9	52	144	120	30	9	52	144	120	30	9
53	39	1	1	1	93	1	144	120	30	9	53	144	120	30	9	53	144	120	30	9
54	39	1	1	1	94	1	144	120	30	9	54	144	120	30	9	54	144	120	30	9
55	39	1	1	1	95	1	144	120	30	9	55	144	120	30	9	55	144	120	30	9

# (公財)日本自転車競技連盟 競技規則集

## 2015年改訂事項一覧表 概要説明



公益財団法人 日本自転車競技連盟

2015年版  
JCF競技規則集

(公財)日本自転車競技連盟2015年版の競技規則集が発行されました。  
ご購入希望のお問合せは、各加盟団体へお問合せください。

←① 取り外して、切る ※ このページから内側部分を取り外して、①折り目部分で切り取り、  
↓② 山折り ②点線部分を山折りにして下さい。携帯版(A5,16p)になります。



付表3：ペナリレタイ彙

ロード	男子エリート世界選手権 オリンピック・男子エリート ワールド・カレンダー クラス HC および1・男子 エリート	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ	その他の競技	その他の競技
トラック	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ エリート6日間競技 その他エリート競技	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ	その他の競技	その他の競技
マウンテン・バイク	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ その他エリート競技	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ	男子エリート世界選手権 オリンピック・ワールドカップ	その他の競技	その他の競技
シクロクロス	男子エリート世界選手権 ワールドカップ クラス1	男子エリート世界選手権 ワールドカップ	男子エリート世界選手権 ワールドカップ	その他の競技	その他の競技
ハラサイクリング	世界選手権 ハラシビック競技会 ワールド・カップ	世界選手権 ハラシビック競技会 ワールド・カップ	世界選手権 ハラシビック競技会 ワールド・カップ	その他の競技	その他の競技
競技中の出来事	署名チェック	署名チェック	署名チェック	署名チェック	署名チェック
1. 署名せず(にス タートする	競技者: 100	競技者: 100	競技者: 100	競技者: 100	競技者: 100
1.1 署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする
1.2 チームが、署 名チェックに おけるチーム 員を尊重しな い	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする	署名せず(にス タートする

登録者規程

第5章 第7条	補足 本連盟の事業に関して行って行った決定事項に對する不服申 立てについては、公益財団法人日本スポーツ振興機構 の「スポーツ仲裁規則」に従ってなされる仲裁により、解 決されるものとする。
------------	---

日本自転車競技連盟ランキング制度

6. ロード・レース	ロード・レース ポイントの集計とランキングの公表 UCIランキングに準じ、52週間のローリング・ランキングと する。対象大会等に獲得ポイントを加算することによって 作成される。同時に、前年の大会で獲得されたポイントは 控除される。 マウンテンバイク (MTB) ポイントの集計とランキングの公表 ランキング集計の対象となる大会数は、当該年度の全日 本選手権大会及びCJ-U、CJ-1の大会合計数に65%を 換けて算出(小数点以下切り上げ)とする。
8. マウンテンバイク (MTB)	マウンテンバイク (MTB) ポイントの集計とランキングの公表 ランキング集計の対象となる大会数は、JおよびJ1の全大 会数の75% (小数点以下切り上げ)とする。

ポイント・レース ケリン チーム・スプリン ト マディオン オムニアム・(全 競技) スクラッチ 速度競走 エリミネイション	2 2 1 2 2 2 2 2	2 2 1 2 2 2 2 2	ポイント・レース ケリン チーム・スプリン ト マディオン オムニアム・(全 競技) スクラッチ 速度競走 エリミネイション	2 2 1 2 2 2 2 2	2 2 1 2 2 2 2 2
BMX	1	2 (側面)	BMX	1	2 (側面)
マウンテンバイク全競技	1		マウンテンバイク全競技	1	
トライアル			トライアル		

第5章 自転車およびロード・レーサー

第16条 (トラック・レーサーおよびロード・レーサー)

3. 自転車  
(2) 技術的詳細  
d) ① 第16条3.(2)d)②を適用する以外の競技においては、伝統的形  
状のハンドルバーのみが使用できる(「構造(1)」図を見よ)。ハ  
ンドルバーは以下に明示する範囲にない限り、上層  
サドル座面(B)を通る水平面：下層、前後輪(これらは同径であ  
る)の上端を通る水平面(C)：後方は操舵軸(D)そして前方は  
5cmの許容差を以って前車軸を通る垂直線(「構造(1)」図を見  
よ)。この(A)については、トラックの短距離種目(フライング  
200m、フライングラップ、スプリント、チーム・スプリント、ケリ  
ン、500m および1km タイムトライアル)に出場する競技者の自  
転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より10cm 以上前  
に出てはならない。  
【J】ハンドルバーの下限(C)(前後輪の上端を通る水平線)は、  
身体形態上の理由で必要な場合には下方に拡張できる。これら  
の理由により、規定より寸法の小さい自転車が必要であると考  
える競技者は、バイク・チェック時にコミセール・ハネルに申告し  
なければならぬ。

ハンドルバーに付くブレーキ操作部は、二つのレバー保持部が  
なる。これは、レバー保持部の上に置いた手でレバーを引い  
てブレーキを操作できない限り、二者択一的な使用を  
し、やすくなる保持部の延長および変形も禁止する。  
ブレーキと変速機操作の複合機構は承認されている。  
ストレープ・フットプレートは承認されている。  
ロード・タイムトライアルとトラックにおける個人およびチーム・バ  
ンケットにおいては、ステアリング・システムに固定延長部を  
付加することができる。この場合、肘の支持点とハンドルバー  
・エクステンションの最高部と最低部(変速レバーを含む)との差  
は10cmを超えてはならない。トラックの500m および1km タ  
イムトライアルにおいてもハンドルバー・エクステンションを付  
加することは可能であるが、この場合、サドルの先端はボトムプ  
ラケット軸を通る垂直面より少なくとも5cm 後方になければなら  
ない。

ボトムプラケット軸を通る垂直線とハンドルバーの先端との距離は  
75cmを超えてはならず、その他の第16条3.(2)d)①(B,C,D)  
に定める制限は変更されない。肘または前腕の保持部は許され  
る(図「構造(1B)」を見よ)。

ポイント・レース ケリン チーム・スプリン ト マディオン オムニアム・(全 競技) スクラッチ 速度競走 エリミネイション	2 2 1 2 2 2 2 2	2 2 1 2 2 2 2 2	ポイント・レース ケリン チーム・スプリン ト マディオン オムニアム・(全 競技) スクラッチ 速度競走 エリミネイション	2 2 1 2 2 2 2 2	2 2 1 2 2 2 2 2
BMX	1	2 (側面)	BMX	1	2 (側面)
マウンテンバイク全競技	1		マウンテンバイク全競技	1	
トライアル			トライアル		

第5章 自転車およびロード・レーサー

第16条 (トラック・レーサーおよびロード・レーサー)

3. 自転車  
(2) 技術的詳細  
d) ① 第16条3.(2)d)②を適用する以外の競技においては、伝統的形  
状のハンドルバーのみが使用できる(「構造(1)」図を見よ)。ハ  
ンドルバーは以下に明示する範囲にない限り、上層  
サドル座面(B)を通る水平面：下層、前後輪(これらは同径であ  
る)の上端を通る水平面(C)：後方は操舵軸(D)そして前方は  
5cmの許容差を以って前車軸を通る垂直線(「構造(1)」図を見  
よ)。この(A)については、トラックの短距離種目(フライング  
200m、フライングラップ、スプリント、チーム・スプリント、ケリ  
ン、500m および1km タイムトライアル)に出場する競技者の自  
転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より10cm 以上前  
に出てはならない。  
【J】ハンドルバーの下限(C)(前後輪の上端を通る水平線)は、  
身体形態上の理由で必要な場合には下方に拡張できる。これら  
の理由により、規定より寸法の小さい自転車が必要であると考  
える競技者は、バイク・チェック時にコミセール・ハネルに申告し  
なければならぬ。

ハンドルバーに付くブレーキ操作部は、二つのレバー保持部が  
なる。これは、レバー保持部の上に置いた手でレバーを引い  
てブレーキを操作できない限り、二者択一的な使用を  
し、やすくなる保持部の延長および変形も禁止する。  
ブレーキと変速機操作の複合機構は承認されている。  
ストレープ・フットプレートは承認されている。  
ロード・タイムトライアルとトラックにおける個人およびチーム・バ  
ンケットにおいては、ステアリング・システムに固定延長部を  
付加することができる。この場合、肘の支持点とハンドルバー  
・エクステンションの最高部と最低部(変速レバーを含む)との差  
は10cmを超えてはならない。トラックの500m および1km タ  
イムトライアルにおいてもハンドルバー・エクステンションを付  
加することは可能であるが、この場合、サドルの先端はボトムプ  
ラケット軸を通る垂直面より少なくとも5cm 後方になければなら  
ない。

ボトムプラケット軸を通る垂直線とハンドルバーの先端との距離は  
75cmを超えてはならず、その他の第16条3.(2)d)①(B,C,D)  
に定める制限は変更されない。肘または前腕の保持部は許され  
る(図「構造(1B)」を見よ)。



■予選により16名を選出する場合 (UCIトラックワールドカップ)

Table with 4 columns: 人数組合せ方法, 編成, 1着, 2着. It details the selection process for 16 athletes from a 16-team preliminary round.

注: 8x2とは2名による対戦を8組行うこと。

■予選により24名を選出する場合 (UCI世界選手権大会)

Table with 4 columns: 人数組合せ方法, 編成, 1着, 2着. It details the selection process for 24 athletes from a 24-team preliminary round.

注: 8x2とは2名による対戦を8組行うこと。

■予選により16名を選出する場合 (UCIトラックワールドカップ)

Table with 4 columns: 人数組合せ方法, 編成, 1着, 2着. It details the selection process for 16 athletes from a 16-team preliminary round.

注: 8x2とは2名による対戦を8組行うこと。

■予選により24名を選出する場合 (UCI世界選手権大会)

Table with 4 columns: 人数組合せ方法, 編成, 1着, 2着. It details the selection process for 24 athletes from a 24-team preliminary round.

注: 8x2とは2名による対戦を8組行うこと。

第8章 競技種目

Table listing various cycling events (e.g., シクロクロス種目, マウンテンバイク種目) and their respective rules and formats.

第14章 トラック・レース規則

Table detailing the rules for track cycling events, including start procedures, race formats, and specific regulations for different disciplines.



- 9. 片足が地面についているときに、自転車と同じ側に両足をくつく(5点)
- 10. 落車、すなわち、腰以上のからだの一部が地面につく、地面あるいは障害物に渡る(5点)
- 11. ペナルティの最大値(5点)に達したとき、競技者はセクションを離れなければならない
- 12. セクションに入ることなく、スコア・カードに5点を記載することは禁じられる
- 13. ハンドルバーを握っていない手で、地面または障害物に触れる(5点)
- ② 追加のペナルティ
  - この章の第 96 条 2、⑨⑩のペナルティに加えて、競技者に以下のペナルティ点を累加できる。
  - 1. 分間隔でスタートするとき、1分間スタートが遅れる(1点)
  - 2. 随行者の援助を求める(10点)
  - 3. ポイント・カードを紛失する、あるいはセクションを抜かず(10点)
- 4. 反スポーツ的行動(10点)
- 11. 設定された競技時間を延長した競技者には、標準時間内において各分または分未満ごとにペナルティ0.5点を科す。
- 13. ヘルメット着用に関する規則を尊重しない(10点)
- 14. ナンバー・プレートおよびまたはボディ・ナンバーに関する規則を尊重しない(10点)
- (10) 順位、競技結果
  - ① 最終周回後、受けたペナルティ・ポイントは掲示板に掲出されるものが勝者となる。
  - ② それ以下の順位は、科された点の順に位置付ける。
  - ③ 同順位の場合(2名またはそれ以上の競技者が合計点において同点)、下記の優先順に順位付けを行う。
    - 1. セロ・ポイントで通過したセクションが多い順。
    - 2. 1ポイント、2ポイントで通過したセクションが多い順、etc;
- 4. 準決勝が行われない競技で表彰台順位にかかわる場合、コミセールの指定による決定戦セクションを通過しなければならない決定戦セクションにおいて同点の場合はそのタイムによって決定する。何人かの競技者が5点であった場合、そのゾーンにおいても最も早く走った者を勝者とする。
- 5. 表彰台順位以外において同点の場合、総競技時間により決定する。
- スーパードライアル・ラウンドにおける同点の場合、1/2決勝ラウンドの最良成績は算入しない、スーパー・ファイナルを最速で完了した競技者を勝者とする。
- 3. 年齢と競技カテゴリ
  - (1) トライアル・カテゴリ
 

ブーサンズ:	9歳と10歳	白コース:	オープン
ペンジャミンズ:	11歳と12歳	青コース:	オープン
ミニムズ:	13歳から14歳	緑コース:	オープン
カデット:	15歳と16歳	黒コース:	オープン
若年少女:	9歳から11歳	白コース:	オープン
少女:	9歳から15歳	桃コース:	20"
男子ジュニア:	16歳から18歳	赤コース:	20"
男子ジュニア:	16歳から18歳	赤コース:	26"
男子ジュニア:	16歳から18歳	赤コース:	20"
男子エリート:	19歳およびそれ以上	黄コース:	20"
男子エリート:	19歳およびそれ以上	黄コース:	26"
女子エリート:	15歳およびそれ以上	桃コース:	オープン
女子エリート:	15歳およびそれ以上	桃コース:	オープン
  - (2) トライアル・カテゴリ
 

ブーサンズ:	9歳と10歳	白コース:	オープン
ペンジャミンズ:	11歳と12歳	青コース:	オープン
ミニムズ:	13歳から14歳	緑コース:	オープン
カデット:	15歳と16歳	黒コース:	オープン
若年少女:	9歳から11歳	白コース:	オープン
少女:	9歳から15歳	桃コース:	20"
男子ジュニア:	16歳から18歳	赤コース:	20"
男子ジュニア:	16歳から18歳	赤コース:	26"
男子ジュニア:	16歳から18歳	赤コース:	20"
男子エリート:	19歳およびそれ以上	黄コース:	20"
男子エリート:	19歳およびそれ以上	黄コース:	26"
女子エリート:	15歳およびそれ以上	桃コース:	オープン
女子エリート:	15歳およびそれ以上	桃コース:	オープン
- 4. 装備
  - (1) トライアル競技の自転車
    - ブレーキ: トライアル・バイク自転車は、2つの有効なブレーキ(前後車輪)を有しなければならない。
  - (2) トライアル競技の自転車
    - ブレーキ: トライアル・バイク自転車は、2つの有効なブレーキ(前後車輪)を有しなければならない。

- 25. (機材交換)
  - 競技者は自転車あるいは車輪を交換するためにのみピット・レーンを使用できる。
  - 暖かい気候の場合(20°C以上)、コミセール・パナールはピット・レーンにおける飲食材料供給を許可することを決定できる。この条件下で、補給は最初の2周中と最後の2周中では許可されない。
  - 機材交換は、ピット・レーン内の同一地点で行なわれなければならない。
  - ピット・エリアの終端を通過した競技者は、自転車または車輪の交換のために次のピット・エリアまで走りつづけなければならない。ピット・エリアの競技レーンにいる競技者は、他の競技者の妨害をすることなく、競技レーン上で自身の経路を後戻りしてピット・レーンの入口から入ることができる。
  - 随行者間でホイールまたは自転車交換することはできない。
- 27. (スタート順)
  - スタート前に、競技者はコミセールの監督の下にスタート・シートに署名しなければならない。競技者は、UCI シクロクロス・ランキングに従って、競技開始 10 分前よりスタート地点に並ぶことができる。
  - 競技者は少なくとも片足を地面についてスタートを待たなければならない。これに従わない者は、スタート・レーンの後方に送られる。
- 30. (順位)
  - 周回遅れとなった競技者は追抜かれた周回を完了しなければならない。フィニッシュ・ストレート前あるいは第91条31項が適用される場合はこれに示される[80%]ゾーン内に設置された出口から競技を離れなければならない。これらの競技者は、競技リザルトに、完走できなかった周回数(付して除外された順)に表示されるものとする。

第 17 章 マウンテンバイク規則

- 第92条 (マウンテンバイク規則)
  - マウンテンバイク競技は、UCI国際マウンテンバイク規則による。
  - 2. クロスカントリー-競技
    - (1) レースの特性
      - ① クロスカントリー-オリリンピック - XCO
 

最長	1.15
ジュニア男子	1.00
ジュニア女子	1.00
男子 U23	1.15
女子 U23	1.15
エリート男子	1.30
エリート女子	1.30
マスターズ男子	1.15
マスターズ女子	1.15
      - ② クロスカントリー-オリリンピック 競技の競技時間は下記の範囲内とする(時間・分)。
 

最長	1.15
ジュニア男子	1.00
ジュニア女子	1.00
男子 U23	1.15
女子 U23	1.15
エリート男子	1.30
エリート女子	1.30
マスターズ男子	1.15
マスターズ女子	1.15
- (マウンテンバイク規則)
  - マウンテンバイク競技は、UCI国際マウンテンバイク規則による。
  - 2. クロスカントリー-競技
    - (1) レースの特性
      - ① クロスカントリー-オリリンピック - XCO
 

最長	1.15
ジュニア男子	1.00
ジュニア女子	1.00
男子 U23	1.15
女子 U23	1.15
エリート男子	1.30
エリート女子	1.30
マスターズ男子	1.15
マスターズ女子	1.15
      - ② クロスカントリー-オリリンピック 競技の競技時間は下記の範囲内とする(時間・分)。
 

最長	1.15
ジュニア男子	1.00
ジュニア女子	1.00
男子 U23	1.15
女子 U23	1.15
エリート男子	1.30
エリート女子	1.30
マスターズ男子	1.15
マスターズ女子	1.15
- 3. ダウンヒル競技
  - (1) 競技の運営
    - ダウンヒル競技
      - 競技の運営
        - 競技者が用いられなければならない。これは下記のいずれかを意味する。
          - 予選ラウンドと呼ばれる予選走行により、前もって大会特別規則によって決定された数の競技者が決勝に進出すること

第19章 BMX競技規則

第96条 (BMX規則)

(BMX規則)  
BMX競技は、UCI BMX規則による。

許される。決闘において最速の競技者は優勝者(ワールドポイントのために競われたポイント)と宣言される。  
■最速のタイムを持つ競技者が勝利する(回の走行のためのスタート順を決定するスーパーラップ)。

第20章 トライアル競技規則

第96条 (トライアル規則)

(トライアル規則)

2. 競技規則

定義  
トライアルは、自転車競技であり、このスポーツの目的は、セクション中にグループ化された障害を、ペナルティポイント(フラ)を招く場面または障害物に足をつくとなく、あるいは自転車の一部(タイヤを除く)に足をつくとなく乗り越えていくことである。全障害を通過するのに必要な全競技時間は、相対に設定する。セクション(競技区間)

(1) 定義

定義

主権者は、競技者の各カテゴリーに応じて、決められた数のセクション(監視される区間)をシリアライズしなければならぬ。  
以下のセクションの寸法が推奨される:  
④ 長さ: 約 60m  
最小幅は 1m(ハンドルバーの高さ)

主権者は、競技者の各カテゴリーに応じて、決められた数のセクションをシリアライズしなければならぬ。  
以下のセクションの寸法が推奨される:  
長さ: 30mから50mの間、UCIトライアルセクション建設ガイドで説明されるように対応する種々のトライアルスタイルに依存する  
最小幅は 1m(ハンドルバーの高さ)

⑤ セクションの両側はグラスファイバーのコーンテープで印をつけなければならない。テープは地上から200cmから300cmの高さに設置する。

セクションの両側はグラスファイバーのコーンテープで印をつけなければならない。テープは地上から200cmから300cmの高さに設置する。

また、難度の異なる経路を示すか、あるいは難度を追加しているいくつかの障害を閉鎖するために、セクション中にグラスファイバーのコーンテープを設置できる。テープは、主権者がパイロットの技術仕様で説明されるように、最小120cm幅で高品質なものでなければならぬ。  
セクション内では矢印により下記のように標示する:  
・方向: 1つの矢印は競技者の進行方向を示す。  
・テープ: 相互に向かい合い、競技者が通過すべき間隔を空けた2つの矢印(同色、同番号)。  
セクション内の矢印とテープは、容易に判るように番号をつけなければならない。=

また、難度の異なる経路を示すか、あるいは難度を追加しているいくつかの障害を閉鎖するために、セクション中にグラスファイバーのコーンテープを設置できる。テープは、主権者がパイロットの技術仕様で説明されるように、最小120cm幅で高品質なものでなければならぬ。  
セクション内では矢印により下記のように標示する:  
・方向: 1つの矢印は競技者の進行方向を示す。  
・テープ: 相互に向かい合い、競技者が通過すべき間隔を空けた2つの矢印(同色、同番号)。  
セクション内の矢印とテープは、容易に判るように番号をつけなければならない。=

⑦ セクションの最大制限時間は2分30秒であるが、コミセール・パナルはセクションの難度により時間を調整できる。

セクションの最大制限時間は2分30秒であるが、コミセール・パナルはセクションの難度により時間を調整できる。

⑧ セクションの選定にあたり、以下の降下高さを超えないようにすること(必要があれば、国際審判団は主催者にこれを要求できる)  
フジツン: 白: 最高 0.60m  
ペンヤミ: 青: 最高 0.80m  
ミニメ: 緑: 最高 1.00m  
カタツト: 黒: 最高 1.20m  
ジュニア: 赤: 最高 1.40m  
エリート: 黄: 最高 1.80m  
女子エリート: 桃: 最高 1.40m  
特別な状況下では、コミセール・パナルは異なる最大降下高を認めることができる。

⑧ セクションの選定にあたり、以下の降下高さを超えないようにすること(必要があれば、国際審判団は主催者にこれを要求できる)  
フジツン: 白: 最高 0.60m  
ペンヤミ: 青: 最高 0.80m  
ミニメ: 緑: 最高 1.00m  
カタツト: 黒: 最高 1.20m  
ジュニア: 赤: 最高 1.40m  
エリート: 黄: 最高 1.80m  
女子エリート: 桃: 最高 1.40m  
特別な状況下では、コミセール・パナルは異なる最大降下高を認めることができる。

(3) サークット  
魅力的なものとするため、セクションは即の中心部、ホール、スラムの中心部、または屋外の1つの近接したエリアに設置されるものとして、大会本部、VIPエリア、表彰台エリア、プレス・オフィス、音響設備、はセクションに近接して設置されなければならない。理想的なレイアウトは、競技者が群衆を通り抜ける必要がないように、すべてのセクションと大会本部が相互に接続されたものである。セクションは、観客が容易に競技を這うことができるような方法で

魅力的なものとするため、競技エリアと呼ばれるセクションは即の中心部、ホール、スラムの中心部、または屋外の1つの近接したエリアに設置されるものとして、大会本部(競技本部、スラム・エリア、スクリュー・エリア)、VIPエリア、プレス・オフィス、音響設備、チームエリア、ラウンドアップ、セクションは競技エリアに近接して設置されなければならない。理想的なレイアウトは、競技者が群衆を通り抜ける必要がないように、競技エリアと大会本部が相互に接続されたものである。競

② サークットの地図は、競技者がセクションの場所を知ることができるよう、スタートとフィニッシュに標示しなければならぬ。競技の段階で使用されるすべてのセクションは、標示されなければならない。  
④ スタートと乗車の規則  
1分間隔またはいくつかのグループによりスタートにおいて、各競技者は、自身のスタート間隔を順守することに責任を持たなければならない。  
⑦ 自転車(二輪)に乗った競技者はニュートラル区画内でスタートしなければならぬ。  
⑧ 競技から乗降した競技者は、競技結果を確定するためにポイントカードをトライアル・オフィスを返納しなければならぬ。  
⑨ 修理  
競技中に修理を行うことはできるが、監察区間の中や他の競技者の妨げとなったり危険を及ぼすような場所で行ってはならない。  
⑩ セクション内点  
セクションにおいて下記のペナルティ点を累加的に競技者に科すことができる:  
1. からの一部あるいはタイヤの範囲外のトライアルバイクの一部で、競技者のバランスを取り戻すために、障害物または地面に支点をとる(1点)  
2. 足首までの足:  
- 足首から腰までの間:  
- 腰から腕と頭を含む上体:  
- 手首までの手(手が触れている場合はハンドルバーも含まれる)  
複数の箇所ですべての点を取った場合に、ペナルティポイントは累積される。からの一部または複数箇所が障害物または地面に接触した場合は、ペナルティポイントを科される。競技者のバランスを取り戻すことにならない。自転車の一部の地面または障害物への接触は許される。  
ペナルティバイクの動作中に重量を上げずに自転車または体の一部が触れて起こること、スタート/スライスは許される。片足で一点で回転することは許される。  
地面または障害物に、ペナルティまたはチェーン・ガード下部で支点をとる(1点)  
セクションの最大制限時間2分30秒を過ぎる(15秒につき1点)  
セクションの最大制限時間2分30秒を過ぎる(15秒につき1ペナルティポイント)

セクションの最大制限時間2分30秒を過ぎる(15秒につき1ペナルティポイント)  
セクションの最大制限時間2分30秒を過ぎる(15秒につき1ペナルティポイント)

4. セクションの境界を示すテープおよび矢印を乗り越え、滑り、あるいは持ち上げ、切断する(5点)。車軸と前後方向の中心線が判別できない矢印をこぼす。  
5. 他のカテゴリーの競技のゾーンに入る、自身のカテゴリーのゾーンあるいは矢印をこぼす。あるいは正しい順番でテープあるいは矢印を乗車しない(5点)。  
6. 同じ数字のついた2つの矢印の間のラインが、矢印の意味とおりを越えられ、逆方向で越えられたら、競技者は再び(矢印の正しい意味に従って)それを通過する必要がある。  
7. 矢印と次のテープの間のゾーンが、矢印の意味とおりを越えられる場合のみ、矢印通過となる。いったん矢印を通過し、それが逆方向で越えられたら、競技者は再び(矢印の正しい意味に従って)それを通過する必要がある。  
8. 少なくともひとつの車輪軸が矢印の高さあるいはチェーン・ラインを越えた場合のみ有効な通過とされる。両車輪が矢印高さより低いラインを越えた場合、また通過していないとされる。すべての場合は、矢印の置き方で両方の車輪が緑色した場合は許されるものとする。  
ペナルティポイント以上上部以外の部分で自転車を持つ(5ペナルティポイント)  
地面または障害物に、両足を同時にこく(5点)  
入り口ゾーンの外に前車輪が出る(5ペナルティポイント)。すなわち、セクションに入った後、テープ外に前車輪が再度出る。

各競技者は、自身のスタート間隔を順守することに責任を持たなければならない。  
各競技者は、自身のスタート間隔を順守することに責任を持たなければならない。  
各競技者は、自身のスタート間隔を順守することに責任を持たなければならない。  
各競技者は、自身のスタート間隔を順守することに責任を持たなければならない。

7. 地面または障害物に、両足を同時にこく(5点)  
8. 入り口ゾーンの外に前車輪が出る(5点) すなわち、セクションに入った後、テープ外に前車輪が再度出る。

ペナルティポイント以上上部以外の部分で自転車を持つ(5ペナルティポイント)  
地面または障害物に、両足を同時にこく(5ペナルティポイント)  
入り口ゾーンの外に前車輪が出る(5ペナルティポイント)。すなわち、セクションに入った後、テープ外に前車輪が再度出る。

p.8 から続く

的な情報の収集、共有、発信とともに優れた制度の導入も含めた実践も重要である。

これらのことを踏まえて、国際推進部会は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘・養成・登用、資料・文書の2ヶ国語（日本語・英語）化、国内外の情報の収集、対外（国内外）的な情報の蓄積及び公開、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化及び国際化に必要な事項の実践のための施策を推進する。

そして、これらの円滑な推進のため、関係者/関係団体/関係国との良好で緊密な協力関係を涵養すべく活動する。

実施事業については以下のとおりである。

## II 実施事業

### 1. 国内競技大会関係事業

#### ① 全日本自転車競技選手権大会

（ロード、個人ロードタイムトライアル、トラック、オムニウム、マスターズ・トラック、室内自転車競技、マウンテンバイク、シクロクロス、BMX、トライアル、パラサイクリング）

#### ② その他国内大会

（全国都道府県対抗、JOCジュニアオリンピックカップ、全国ジュニア・ロード、日本スポーツマスターズ、チャレンジサイクルロードレース、国民体育大会自転車競技会）

### 2. 国内での国際競技大会

#### ① ツアー・オブ・ジャパン

#### ② ツール・ド・おきなわ

#### ③ ツール・ド・北海道

#### ④ TOURde熊野

#### ⑤ シマノ鈴鹿国際ロードレース大会

#### ⑥ ジャパンカップサイクルロードレース大会

#### ⑦ 伊豆BMX国際

#### ⑧ ジャパンカップ（室内自転車競技）

#### ⑨ サイクルサッカー・ワールドカップ東京大会

#### ⑩ インターナショナルびわこ高島ステージ

#### ⑪ 八幡浜インターナショナルクロスカントリー

#### ⑫ 勢和多気国際マウンテンバイクレース

### 3. 国際競技大会関係主要事業

#### ① 世界選手権自転車競技大会選手派遣

（トラック、ロード、マウンテンバイク、BMX、室内自転車競技、シクロクロス、トライアル、Jrトラック）

#### ② ワールドカップ大会選手派遣

#### ③ アジア自転車競技選手権大会選手派遣

（トラック、ロード、マウンテンバイク）

#### ④ UCIトラックカレンダーレースへの派遣

#### ⑤ 国際会議への派遣

### 4. 加盟団体関係主要事業

#### (1) 都道府県連盟関連事業

##### ① 全国地域別道路競走大会（8地域）

##### ② 全国地域別トラックレース大会（8地域）

##### ③ 全国都道府県別自転車競技選手権大会（47都道府県）

#### (2) 日本プロフェッショナルサイクリスト協会

##### 関連事業

##### ① 全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会

##### ② プロサイクリスト選手強化

##### ③ プロサイクリスト国際競技大会

#### (3) 全国高等学校体育連盟自転車競技専門部

##### 関連事業

##### ① 全国高等学校選抜自転車競技大会（トラック、ロード）

##### ② 全国高等学校自転車競技全国大会（ブロック・全国）

##### ③ チョングジュ MBC 国際ロードレース派遣

##### ④ 全国高等学校総合体育大会

#### (4) 日本学生自転車競技連盟関連事業

##### ① 全日本学生選手権自転車競技大会

（トラック、ロード、チームロード）

##### ② 全日本大学対抗選手権自転車競技大会

#### (5) 全日本実業団自転車競技連盟関連事業

##### ① JBCF 経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップ

##### ② JBCF 全日本トラックチャンピオンシップ

##### ③ 東西地域別実業団（トラック、ロード）

##### ④ JBCF 石川サイクルロードレース

### 5. アンチ・ドーピングの推進事業

アンチ・ドーピング委員会と連携し、「大会検査」、「アンチ・ドーピング講習会、アウトリーチプログラム実施、啓発活動においてアンチ・ドーピング活動を行う。

### 6. 強化事業

#### (1) 強化合宿

#### (2) 国内屋内型競走路合宿

#### (3) コーチ・スタッフの整備等

#### (4) 競技用機材等整備

### 7. 普及事業

#### (1) 全国自転車競技指導担当者研修会・審判講習会

#### (2) 自転車競技の普及・広報

#### (3) 広報誌発行事業

#### (4) 未登録者推進に係るシステム改修

#### (5) 広報（宣伝、現地報道対応）

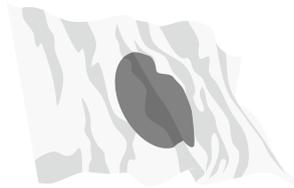
#### (6) アンチ・ドーピング活動

## 収支予算書総括表

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

（単位：円）

科目	一般会計	日本体育協会 補助事業特別会計	国際競技力 向上事業特別会計	サリビク・サハマン 事業特別会計	JKA・公益補助 事業特別会計	スポーツ振興基金 事業特別会計	内部取引消去	合計
<b>I 事業活動収支の部</b>								
<b>1. 事業活動収入</b>								
① 基本財産運用収入	950,000	0	0	0	0	0	0	950,000
② 特定資産運用収入	10,000	0	0	0	0	0	0	10,000
③ 会費収入	35,521,000	0	0	0	0	0	0	35,521,000
④ 事業収入	27,270,000	0	0	0	0	0	0	27,270,000
⑤ 補助金等収入	219,446,000	10,400,000	37,827,000	3,200,000	288,874,000	84,778,000	0	644,525,000
⑥ 負担金等収入	5,240,000	0	6,503,000	0	0	10,091,000	0	21,834,000
⑦ 寄付金収入	1,000,000	0	0	0	0	0	0	1,000,000
⑧ 雑収入	1,549,000	0	0	0	0	0	0	1,549,000
⑨ 他会計からの繰入金収入	0	0	5,000,000	0	65,331,000	538,000	△70,869,000	0
事業活動収入計	290,986,000	10,400,000	49,330,000	3,200,000	354,205,000	95,407,000	△70,869,000	732,659,000
<b>2. 事業活動支出</b>								
① 事業費支出	131,953,000	10,401,000	49,330,000	3,200,000	354,205,000	95,407,000	0	644,496,000
② 管理費支出	95,199,000	0	0	0	0	0	0	95,199,000
③ 他会計への繰入金支出	70,869,000	0	0	0	0	0	△70,869,000	0
事業活動支出計	298,021,010	10,401,000	49,330,000	3,200,000	354,205,000	95,407,000	△70,869,000	739,695,000
事業活動収支差額	△7,035,000	△1,000	0	0	0	0	0	△7,036,000
<b>II 投資活動収支の部</b>								
<b>1. 投資活動収入</b>								
① 特定資産取崩収入	0	0	0	0	0	0	0	0
② 移転補償金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>2. 投資活動支出</b>								
① 特定資産取得支出	2,014,000	0	0	0	0	0	0	2,014,000
② 事務所移転費支出	0	0	0	0	0	0	0	0
投資活動支出計	2,014,000	0	0	0	0	0	0	2,014,000
投資活動収支差額	△2,014,000	0	0	0	0	0	0	△2,014,000
<b>III 予備費支出</b>								
① 予備費支出	0	0	0	0	0	0	0	0
当期収支差額	△9,049,000	△1,000	0	0	0	0	0	△9,050,000
前期繰越収支差額	101,762,705	8,020,355	3,560,238	28,641,345	0	0	0	141,984,643
次期繰越収支差額	92,713,705	8,019,355	3,560,238	28,641,345	0	0	0	132,934,643



# 日本新記録 Japan New Record

## ■ 女子チーム・スプリント

・ 333.33m × 2

女子ジュニア 48"853 日本 (大久保 花梨、鈴木 奈央)

2015/02/04

タイ・ナコンラチャシマ

### 今後の大会予定

期 日	大 会 名	種 目	場 所
5月2日 ~ 3日	MTB インターナショナル XCO びわこ高島ステージ	MTB	滋 賀/高 島 朽木スキー場
5月4日 ~ 5日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	TRIAL	佐 久/ミレニアムパーク
5月4日 ~ 5日	MTB インターナショナル DHI びわこ高島ステージ	MTB	滋 賀/高 島 箱館山スキー場
5月16日 ~ 17日	MTB 八幡浜国際クロスカントリー	MTB	愛 媛/八幡浜
5月17日 ~ 24日	ツアー・オブ・ジャパン	RR	大 阪~東 京
5月18日	第62回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	大 分/別府競輪場
5月28日 ~ 31日	ツール・ド・熊野	RR	和歌山/新宮他
5月30日 ~ 31日	MTB 富士見パノラマ大会 (春) CJ-1 DHI/XCO	MTB	長 野/富士見パノラマリゾート
6月13日 ~ 14日	全日本学生選手権個人ロードレース大会	RR	長 野/奥木曾湖
6月13日 ~ 14日	MTB 新幹線開業記念 妙高杉ノ原 STAGE CJ-2 XCO	MTB	新 潟/妙高杉ノ原スキー場
6月21日	全日本選手権自転車競技大会-ロード・タイムトライアル	RR	栃 木/大田原
6月21日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・ロード	PARA	栃 木/大田原
6月27日 ~ 28日	全日本選手権自転車競技大会-ロードレース	RR	栃 木/那 須
6月27日 ~ 28日	MTB クロスカントリーエリミネーター in 前橋 CJ-2 XCE	MTB	群 馬/前 橋 岩神緑地
7月4日 ~ 5日	全日本選手権自転車競技大会-BMX	BMX	茨 城/国営ひたち海浜公園
7月4日 ~ 5日	全日本学生選手権トラック競技大会	TR	静 岡/伊豆ペロドローム
7月18日 ~ 19日	全日本選手権自転車競技大会-マウンテンバイク	MTB	長 野/富士見パノラマ
7月19日	JBCF石川サイクルロードレース	RR	福 島/石川町
7月21日 ~ 26日	UCI世界選手権大会-BMX	BMX	ベルギー/ゾルダー
7月27日 ~ 28日	アジア大学選手権大会	RR	大韓民国/昌寧郡
7月28日 ~ 2日	UCI世界選手権大会-パラサイクリング・ロード	PARA	スイス/ノットウィル
8月1日 ~ 2日	白馬マウンテンバイク大会 CJ-1 XCO	MTB	長 野/白馬スノーハープ

## 連盟の動き (3月上旬~4月中旬)

3月 5日 平成 26 年度第 1 回トラック部会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
平成 26 年度第 6 回広報部会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
13日 平成 26 年度第 2 回評議員会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
23日 平成 26 年度第 2 回医科学部会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
30日 平成 26 年度第 2 回トラック部会	於：東京・自転車総合ビル 6階会議室
4月 6日 女子ロード Tour of Thailand 2015 日本代表選手団出発	於：タイ・ウドンタニー 帰国 → 4/14
10日 平成 27 年度第 1 回競技委員会	於：静岡・サイテル 会議室
12日 平成 27 年度第 1 回強化委員会	於：静岡・伊豆ペロドローム 会議室

### 【競技結果】

2015年 UCI パラサイクリングトラック世界選手権 (2015/3/26-29 オランダ・アペルドールン)	1kmTT	W-C2 7位 藤井 美穂	5:17.991	
	M-C3 7位 藤田 征樹	1:12.960	W-B 2位 鹿沼由理恵・田中まい	3:34.244
	M-C4 4位 石井 雅史	1:09.130	4kmlP	
	W-B 4位 鹿沼由理恵・田中まい	1:10.855	M-C4 8位 石井 雅史	4:56.662
500mTT	3kmlP	Sprint		
W-C2 7位 藤井 美穂	M-C3 2位 藤田 征樹	3:43.011	W-B 3位 鹿沼由理恵・田中まい	

### 2015年 UCI パラサイクリングトラック世界選手権 日本代表選手団

大会名 2015年 UCI パラサイクリングトラック世界選手権  
開催場所 オランダ・アペルドールン  
開催期間 2015年 3月 26日 ~ 29日  
派遣期間 2015年 3月 22日 ~ 31日  
代表選手団  
チーフ 権丈 泰巳  
コーチ 柿木 克之  
メカニック 鬼原 積  
マッサー 菊地 孝明  
選手 藤田 征樹 (茨城・日立建機)  
石井 雅史 (東京・藤沢市みらい創造財団)  
鹿沼由理恵 (東京・楽天ソシオビジネス)  
田中 まい (JPCA・日本競輪選手会) パイロット  
藤井 美穂 (東京・楽天ソシオビジネス)

### 欧州ロード強化合宿遠征 (2~3月) 派遣選手団

開催場所 フランス・トゥルーズ  
派遣期間 2015年 2月 23日 ~ 3月 31日  
代表選手団  
監督 浅田 顕 (JCF ロード競技部会員) 2/23-3/18  
コーチ 橋川 健 (JCF ロード競技部会員) 3/17-3/31  
メカニック/マッサー 現地スタッフ [随時]  
選手 清水 太己 (東京・EQADS) 2/24-4/21  
面手 利輝 (神奈川・EQADS) 2/24 ~ 4/21  
内野 直也 (埼玉・EQADS) 2/24 ~ 4/21  
小橋 勇利 (愛媛・JP Sports Test Team Massa Annex) 2/24 ~ 4/21  
岡 篤志 (茨城・EQADS) 2/24-4/21  
秋田 拓磨 (福井・朝日大学) 2/24-3/31  
片桐 善也 (新潟・日本大学) 2/24-3/31  
広瀬 樹 (神奈川・中央大学) 2/24-3/31  
松本 祐典 (京都・明治大学) 2/24-3/31



# 2015 CHALLENGE CYCLE ROAD RACE

心臓破りの坂を登る A-E のメイン集団

4月5日、静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンター 5km サーキットにおいて第40回チャレンジサイクルロードレース大会が開催された。

今回はカテゴリー B 部門にも通年登録者がエントリーできることもあり、総勢 921 名の選手が勢ぞろいした。

チャレンジロードはこの数年天候に恵まれず、一昨年は大会中止、昨年は A-E 部門が途中中止となったが、今年度は無事全部門を終了することができた。

午前 9 時からの A-J 部門は 240 名と定員を遥かにオーバーしたため、A-J1 と A-J2 の 2 グループに分けての開催となった。2 分後からスタートした偶数ゼッケンの J2 のスピードが早く、J1 と J2 の先頭集団が合体しての展開となり、フィニッシュも両グループ合同スプリントを J2 の徳田が制した。

同時並走の A-Y 部門は、3 人の榛生昇陽を振り切った地元伊豆総合高の勝呂が、また A-M 部門は単独で西谷がトップでフィニッシュした。

午後 2 時からは A-E・A-U・A-F 部門がスタート。A-F ではジュニアの梶原が昨年に続いて、エリートを抑え単独でフィニッシュ。A-U では 2012 年の雨宮、2014 年の近谷に続いて、岡本が日大 3 連覇を果たした。

メインイベントの A-E 部門では、Team UKYO が完全にレースをコントロールして 1~4 位を独占。個人参加以外では初めて外人選手が表彰台にたった。



A-J2 のスタート



B-3 のスタート

**【競技結果】**

第40回チャレンジサイクルロードレース大会  
(2015/4/5 静岡・日本サイクルスポーツセンター)

**A-E (59km)**

- 1 ウルタン・ハプロ東京 UKYO 1:36:35.29
- 2 フジヨル・オスカル東京 UKYO 1:37:04.57
- 3 グリーン・パドル東京 UKYO 1:37:05.19
- 4 土井 雪広 山形 UKYO 1:37:05.61
- 5 鈴木 龍 栃木 プラゼン 1:37:06.40
- 6 中根 英登 愛知 愛三工業 1:37:26.62



**A-U (39km)**

- 1 岡本 隼 和歌山 日本大 1:01:34.28
- 2 村田ウス・ダニエル東京 UKYO 1:01:39.24
- 3 広瀬 樹 神奈川 中央大 1:02:32.69
- 4 吉田 優樹 福島 日本大 1:02:36.77
- 5 雨澤 毅明 栃木 プラゼン 1:02:38.05
- 6 草場 啓吾 京都 日本大 1:02:39.37



**A-J1 (39km)**

- 1 石井 駿平 群馬 前橋工高 1:06:01.37
- 2 石上 優大 神奈川 横浜高 1:06:02.16
- 3 武山 晃輔 山梨 甲府工高 1:06:02.27
- 4 納家 一樹 東京 八王子桑志 1:06:02.39
- 5 渡辺 慶太 埼玉 浦和工高 1:06:02.58
- 6 坂 五友 東京 昭和第一 1:06:04.79



**A-J2 (39km)**

- 1 徳田 匠 京都 北桑田高 1:04:00.66
- 2 門田 祐輔 東京 美原高 1:04:03.18
- 3 小野康太郎 東京 スミダバ 初 1:04:04.33
- 4 花田 聖誠 東京 昭和第一 1:04:06.33
- 5 石原 祐希 栃木 真岡工高 1:04:06.58
- 6 湯浅 健生 京都 北桑田高 1:04:06.58



**A-Y (29km)**

- 1 勝呂 真至 静岡 伊豆総合 49:42.65
- 2 奥村 十夢 奈良 榛生昇陽 49:43.87
- 3 三好憲士郎 奈良 榛生昇陽 49:44.52
- 4 岡本 篤樹 奈良 榛生昇陽 49:44.84
- 5 谷 和也 大阪 市立堺高 49:45.01
- 6 會田 陸人 福島 学法石川 49:48.68



**A-M (39km)**

- 1 西谷 雅史 東京 オートベスト 1:07:55.17
- 2 半澤 雄高 東京 LinkTohoku 1:08:24.69
- 3 黒川 隆之 神奈川 FIETS 1:10:40.49
- 4 齋藤 敦 東京 Skyrockets 1:10:55.30
- 5 大野二美雄 東京 AcquaTama 1:10:55.98
- 6 山本 慈朗 東京 カホンズ 1:11:00.75



**A-F (19km)**

- 1 梶原 悠未 埼玉 坂戸高 35:11.15
- 2 大堀 博美 神奈川 YokosukaUno 35:47.92
- 3 谷 伊央里 群馬 日本体大 36:28.74
- 4 細谷 夢菜 埼玉 浦和工高 36:32.27
- 5 合田祐美子 岡山 BH Astifo 36:32.74
- 6 古田 佳美 神奈川 竹芝レーシング 36:37.20



**B-1 (14km)**

- 1 柳澤 創 チームオートベスト 25:51.64
- 2 五十嵐洸太 Bfy Racing 25:53.49
- 3 石井 汰樹 輪千レーシングチーム 26:00.75

**B-2 (24km)**

- 1 今井 勇太 駿河モテロッソ 43:06.02
- 2 金澤 一流 TEAM光 44:50.73
- 3 志田 龍星 岐阜第一高 46:04.59

**B-3 (24km)**

- 1 國本 英典 TEAM光 44:21.78
- 2 福代 直希 TEAM光 44:24.47
- 3 志村 俊宗 44:24.99

**B-4 (24km)**

- 1 井上 善裕 INOUE Racing 44:43.24
- 2 鈴木 克明 エキップつくば 44:45.88
- 3 福田 健太 INOUE Racing 44:47.06

**B-5 (14km)**

- 1 近江 邦夫 Moa-Dreamer 25:10.60
- 2 奈良 正一 天狗党 25:15.88
- 3 松村 悟 パインヒルズ'90 25:21.33

**B-6 (14km)**

- 1 江越 和也 TEAM VAPOR 25:17.64
- 2 小野 忠 パインヒルズ'90 25:31.16
- 3 杉山 和重 なるしまフレンド 26:11.47

**B-7 (14km)**

- 1 高橋 秀樹 フィッツ 27:07.78
- 2 細山 正一 ugo^re^sinngu 27:34.44
- 3 澤田 龍之 SPADE ACE 27:36.62

**B-8 (14km)**

- 1 小笠原 恵 TEAM光 30:05.61
- 2 山本真紀恵 神・ミヤザワ 32:06.00
- 3 平野 弓子 32:45.49

**B-C1 (2km)**

- 1 若林 蔵月 BIKE TOWN 5:10.260

**B-C2 (3km)**

- 1 橋本 のこ エキップ あづみの 7:01.296

**B-C3 (4km)**

- 1 渡辺 耶斗 Team FITTE 6:08.84

A-Y 優勝の勝呂 (伊豆総合)



A-J2 優勝の徳田 (左) と A-J1 優勝の石井 (黄・青ジャージ)

A-F 優勝の梶原



A-M 優勝の西谷



A-E 優勝のウルタスン・バプロ



A-U 優勝の岡本



**2015 年 Women's Tour of NZ 日本代表選手団**

大会名 2015 年 Women's Tour of NZ (UCI2.2)  
開催場所 ニュージーランド・ウエリントン  
開催期間 2015 年 2 月 18 日～22 日  
派遣期間 2015 年 2 月 16 日～23 日  
代表選手団

- 監督 高橋 松吉 (ロード支援コーチ)
- メカニック 中村 仁 (強化支援スタッフ)
- マッサー 穴田 悠吾 (強化支援スタッフ)
- 選手 西 加南子 (千葉・LUMINARIA)
- 金子 広美 (三重・イメ・アイランド信濃山形)
- 合田祐美子 (岡山・早稲田大学)
- 斉藤 望 (宮城・日本体育大学)
- 梶原 悠未 (埼玉・筑波大坂戸高校)

**ツール・ド・台湾 2015 日本代表選手団**

大会名 ツール・ド・台湾 2015  
開催場所 チャイニーズ・タイペイ 台北～高雄  
大会期間 2015 年 3 月 22 日～3 月 26 日  
派遣期間 2015 年 3 月 19 日～3 月 27 日  
代表選手団

- 監督 浅田 顕 (JCF ロード強化スタッフ)
- メカニック 高橋 優平 (JCF ロード強化支援スタッフ)
- マッサー 穴田 悠吾 (JCF ロード強化支援スタッフ)
- 選手 佐野 淳哉 (栃木 那須プラーゼン)
- 中島 康晴 (福井・愛三工業レーシングチーム)
- 内間 康平 (沖縄・プリチストソアカーサイクリングチーム)
- 中根 英登 (愛知・愛三工業レーシングチーム)
- 入部正太郎 (奈良・シマノレーシング)



## 平成 26 年度全国高等学校選抜自転車競技大会



女子スクラッチで一人逃げる梶原

平成 26 年度全国高等学校選抜自転車競技大会が 3 月 19 日から 22 日の 4 日間、熊本県熊本市熊本競輪場（トラック競技）及び熊本県山鹿市菊鹿地区特設ステージ（ロード競技）で開催された。

初日、開会式に先だって行なわれた女子 2km 個人追抜予選、男子 3km 個人追抜予選の結果を受けて、翌日に順位決定戦が行なわれた。女子 2km 個人追抜は梶原悠未（筑波大坂戸）が 2 分 37 秒 112 で優勝。2 位は橋本優弥（県岐阜商）、3 位は古山稀絵（昭和一学園）となった。優勝した梶原悠未は、予選において 2 分 36 秒 166 の大会新記録をマークした。男子 3km 個人追抜は、予選タイム 2 位の橋本陸（祐誠）が 3 分 36 秒 648 で逆転優勝。2 位は沢田桂太郎（東北）、

3 位は安川義道（榛生昇陽）となった。

ポイントレースは今村駿介（祐誠）が、5 回のポイント周回で 1 着をとり大差で優勝。2 位は石井駿平（前橋工）、3 位は小玉和寿（学法石川）となった。

男子スクラッチは牽制が続き集団ゴールとなり、安彦統賀（川越工）が優勝を飾り、2 位は渡邊祐希（学法石川）、3 位は川野潤（甲府工）となった。

女子スクラッチは後半、梶原悠未（筑波大坂戸）と橋本優弥（県岐阜商）の 2 名が逃げ、そのまま逃げ切って、梶原が 2km 個人追抜に続き優勝、橋本が 2 位、3 位は根岸恵美（興陽）となった。

女子 500m タイム・トライアルは 1 年生の細谷夢菜（浦和工）が 37 秒 861 で優勝。2 位は平井杏奈（祐誠）、3 位は大久保花梨（祐誠）となった。

男子 1km タイム・トライアルでも 1 年生の山田諒（岐阜第一）が 1 分 08 秒 556 で優勝。2 位は山根将太（倉吉西）、3 位は小原文一郎（青森山田）となった。

男子ケイリンは南潤（和歌北）が、予選から決勝まで安定した競走をして優勝を飾り、2 位は吉田英司（福井科技）、3 位は江本祐輝（桜丘）となった。

女子ケイリンは内村舞織（南大隅）が混戦を制して優勝。2 位は大久保花梨（祐誠）、3 位は内村風羽香（南大隅）となった。

スプリント決勝は予選 1 位から勝ち上がった梶原大地（祐誠）と、予選 6 位から勝ち上がった田中克尚（岡山工）との対戦となったが、梶原が 2 本先取して優勝した。2 位は田中、3 位は地元谷口力也（開新）となった。



女子ロード優勝の梶原



男子ロードのゴールスプリント、先頭が優勝した石上

大会最終日は熊本県山鹿市菊鹿地区特設ステージに会場を移し、個人ロードレースが行われた。やや寒くはあったが、晴天でのレースとなった。男子80.5km(7周回)、女子34.5km(3周回)で実施された。男子は175名の出走で、レース序盤から2~3名の選手が逃げては、その周回のチェックポイントで集団に吸収されるといった展開で進み、残り1周回で先頭集

団が24名となった。残り2kmを切ってから先頭が3名となり、第2集団は13名となった。3名によるゴール勝負となり、石上優大(横浜)が優勝。2位は日野竜嘉(松山聖陵)、3位は中村圭佑(昭和一学園)となった。

女子は44名の出走となったが、レース序盤から梶原悠末(筑波大坂戸)がひとりで逃げをきめ、昨年度に続き2連覇を飾った。2位は細谷夢菜(浦

和工)、3位は古山稀絵(昭和一学園)となった。

男子学校対抗総合は4種目の入賞(3種目は優勝)を果たし、31点を獲得した祐誠が総合優勝を飾った。また、女子学校対抗総合は3種目の優勝を果たした筑波大坂戸が、昨年度に続き2年連続の総合優勝を飾った。(全国高体連自転車競技専門部副部長 井上 正継)

【競技結果】

平成26年度全国高等学校選抜自転車競技大会 (2015/3/19-22 熊本・熊本/山鹿)

男子スプリント

- 1 梶原 大地 福岡 祐誠
- 2 田中 克尚 岡山 岡山工
- 3 谷口 力也 熊本 開新

男子1kmタイムトライアル

- 1 山田 諒 岐阜 岐阜第一 1:08.556
- 2 山根 将太 鳥取 倉吉西 1:09.123
- 3 小原丈一郎 青森 青森山田 1:09.501

男子ケリッ

- 1 南 潤 和歌山 和歌山北
- 2 吉田 英司 福井 福井科技
- 3 江本 祐輝 愛知 桜丘

男子個人パーシュート

- 1 橋本 陸 福岡 祐誠 3:36.648
- 2 沢田桂太郎 宮城 東北 3:38.458
- 3 安川 義道 奈良 榛生昇陽 3:38.937

男子スクラッチ(8km)

- 1 安彦 統賀 埼玉 川越工
- 2 渡邊 祐希 福島 学法石川
- 3 川野 潤 山梨 甲府工

男子ポイントレース

- 1 今村 駿介 福岡 祐誠 28p
- 2 石井 駿平 群馬 前橋工 15p
- 3 小玉 和寿 福島 学法石川 11p

女子500mタイムトライアル

- 1 細谷 夢菜 埼玉 浦和工 37.861
- 2 平井 杏菜 福岡 祐誠 37.954
- 3 大久保花梨 福岡 祐誠 38.141

女子ケリッ

- 1 内村 舞織 鹿児島 南大隅
- 2 大久保花梨 福岡 祐誠
- 3 内村風羽香 鹿児島 南大隅

女子個人パーシュート

- 1 梶原 悠末 埼玉 筑波大坂戸 2:37.112
- 2 橋本 優弥 岐阜 県岐阜商 2:46.205
- 3 古山 稀絵 東京 昭和一学 2:45.210

女子スクラッチ(6km)

- 1 梶原 悠末 埼玉 筑波大坂戸
- 2 橋本 優弥 岐阜 県岐阜商
- 3 根岸 恵美 岡山 興陽

女子ロードレース(34.5km)

- 1 梶原 悠末 埼玉 筑波大坂戸 1:03:10.1
- 2 細谷 夢菜 埼玉 浦和工 1:04:58.3
- 3 古山 稀絵 東京 昭和一学 1:05:08.7
- 4 元砂水咲美 奈良 榛生昇陽 1:06:12.7
- 5 石井 菜摘 栃木 作新学院 1:06:12.8
- 6 儀間 光希 沖縄 北中城 1:06:17.9

男子ロードレース(80.5km)

- 1 石上 優大 神奈川 横浜 2:06:14.2
- 2 日野 竜嘉 愛媛 松山聖陵 2:06:14.5
- 3 中村 圭佑 東京 昭和一学 2:06:15.3
- 4 徳田 匠 京都 北桑田 2:06:35.2

- 5 今村 駿介 福岡 祐誠 2:06:36.1
- 6 奥村 十夢 奈良 榛生昇陽 2:06:36.2

男子総合成績

- 1 祐誠高等学校 31p
- 2 松翠学園岐阜第一高等学校 18p
- 3 学校法人石川高等学校 13p



女子総合成績

- 1 筑波大学附属坂戸高等学校 27p
- 2 昭和第一学園高等学校 24p
- 3 祐誠高等学校 22p





チャレンジロード、B-C1のスタート前

# CHALLENGE CYCLE ROAD RACE

チャレンジロード、A-J1のメイン集団

### < JCF オフィシャル・スポンサー >



### < オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.212 2015年4月・5月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/坂井田 米治

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

KEIRIN



この資料および00の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。

© (公財)日本自転車競技連盟 2015 本紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。

※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。

＝シクリスムエコー読者のみなさまへ＝ 本誌への寄稿またはご意見、ご感想等を編集事務局までお寄せください。